

平成16年度第1回手賀沼水循環回復行動推進会議 議事録（概要）

- 日時：平成16年7月23日（金） 午後2時～4時
- 場所：手賀沼親水広場（我孫子市高野山）
- 出席者：別紙のとおり

○事務局あいさつ（水質保全課長）

平成16年度第1回手賀沼水循環回復行動推進会議の開催にあたり、事務局を代表いたしまして一言、ごあいさつ申し上げます。

本日は、御多忙の中、皆様方には、手賀沼水循環回復行動推進会議に御出席いただき誠にありがとうございます。

さて、手賀沼の水質状況は、これまでの種々の対策の推進により、ここ数年改善してきており、特に、平成12年度から北千葉導水事業が本格稼働となったこともあり、大幅な改善の傾向が見られ、平成13年度には、昭和49年度から27年間連続していた全国湖沼ワースト1から脱却し、また、平成14年度には、さらに改善が進みワースト9位となりました。平成15年度の速報値は、14年度なみとなっております。

しかしながら、依然として環境基準は達成されておらず、一層の水質改善が求められるとともに、湧水の枯渇や河川水量の減少、水辺の減少などの問題も生じております。

このため、県では、環境省が実施した基礎調査の成果を踏まえ、昨年7月、水循環回復の視点から、総合的な水環境の保全を目指す「手賀沼水循環回復行動計画」を策定し、10月には皆様の御参画のもとに、この行動推進会議を立ち上げ、取組を開始したところです。

本日は、本年度1回目の推進会議ということで、昨年度の取組の実績と今年度の計画について御説明し、取組の進捗状況の確認と今後の推進方策などについてご検討いただきたいと考えております。

また、住民の皆様と連携・協働して行った湧水調査などの結果について御報告するとともに、以前から指摘されておりました計画目標の達成状況の把握方法について御検討いただきたいと考えております。

皆様の忌憚のないご意見をいただくことをお願いし、開会のあいさつとさせていただきます。

○会長あいさつ（佐倉保夫千葉大学理学部教授）

佐倉です。ここ数日異常に暑い日が続いております。

今日は主として15年度事業実績と16年度の事業計画について御報告いただき、ご検討いただくこととしています。また、昨年度に実施した住民の皆さんによる湧水調査等の結果の報告があり、期待しています。

皆さんのご協力をよろしく申し上げます。

○議 事（佐倉会長が議長となり進行）

1 手賀沼水循環回復行動計画に係る平成15年度実績及び16年度事業計画について
事務局（千代副課長）から、資料1-1により、手賀沼の水環境保全に係る
主な取組の実績と計画について説明。

（質疑等）

・小林委員（環境イーハトーブの会）

この計画の中では、水量回復の取組が重要で、土地利用と絡む。透水性舗装はだいぶ増えているが、緑地の保全は現状とベースが違う。どこの市町村で緑地が減っているのか。大規模な開発があったのか。H15 現状の数値と比較できず、評価が難しい。

都市緑地保全法の改正により何ができるようになったのか。

佐倉先生が仰っているように、開発を行う場合にはそれに見合った涵養域を確保するなどの施策が必要なのではないかと。

・佐倉会長

沼周辺を歩いてみて、以前から手賀沼の北側では開発が進んでおり、南側は霊園となっていたが、最近霊園の隣で開発が進んでいる。

宅地開発を行う場合、県で指導はしているのか。

・事務局（千代副課長）

都市緑地保全法の改正ですが、緑地保全の地域を指定し、一定の規制を行えるようになることや、県や市町村などが所有者と協定を締結し、管理を行うしくみなどが整備されている。

今後、この法制度などを活用し、緑地保全の取組をどのように進めていくことができるか、検討課題として認識している。

宅地開発については、規模によるが、大きな開発については県で、小さなものについては、市町村が指導している。

・池下委員（柏市環境部長）

毎年度の事業計画を実施するに当たり、キャッチフレーズをつけてみてはどうか。例えば、今年度の最重点課題は水量回復の取組と考えられるが、これにキャッチフレーズをつけるというようにしてはどうか。

・川俣委員（古利根の自然を守る会）

H10年度とH15年度で市町村別の緑地面積の比較を行ってはどうか。

・事務局（千代副課長）

市町村別には比較していないが、流域全体では山林の面積が大きく減っている。ただし、算出方法が異なっており、計画策定時は、国土地理院の細密数値情報から算出しており2,545haとしたが、H15年度の数値は土地管理台帳から1,650haと算出されている。ちなみに、H6年度を土地管理台帳から算出すると

1,731ha となる。

次回、緑地面積の算出方法も含め、精査してもう一度数値を出したいと考えている。

- ・塩野谷委員（ふれあい手賀沼の会）

底泥浚渫の量が平成15年度に比べ平成16年度は下がっているが、予算も減っているということか。

- ・千葉委員代理（千葉県県土整備部河川計画課 佐藤室長）

平成15年度までは、地域戦略プランの上乗せ分があった。16年度から地域戦略プランはなくなり、プランがある前と同レベルとなっている。

- ・田口委員（水と土・手賀沼の会）

水質改善の取組で、北千葉導水事業による浄化用水の導入があるが、見た目には水質は改善されたが、水の中の生物が減ってきている。

- ・事務局（千代副課長）

利根川下流河川事務所が導水事業の影響などを継続的にモニタリング調査を行っている。それらの結果を積み重ねて見ていく必要があると考えている。

- ・瀧委員（千葉工業大学教授）

緑地の保全については、山林のカウントに問題があるのではないか。平成10年度から平成15年度にはそれほど森林は減っていないと思う。

手賀沼の水は導水により、栄養がスリム化されたこと、流況が変わって生物の生息地が限定されるようになったのではないかと。

- ・小林委員

①環境保全型農業がなかなか進まない。流域において農業が少ないということか。食と農業、買う人との連携が必要である。

②生物生息環境の保全の取組で「生態系に配慮した公園整備」など生物に配慮した名前の事業であっても、実質的にそうでない場合が多い。

是非専門家を入れて取組を進めて欲しい。

- ・渡邊委員（千葉県農林水産部理事）

農業総合研究センターにおいて、施肥方法、農薬、土壌消毒について研究がされている。

手賀沼の流域は都市農業型で、昔から農地周辺の住民に対する遠慮があり、もともと肥料や農薬などの使用を控えているという実状もあるのではないかと。

県全体でちばエコ農業3倍増、と目標にしているが、面積にして千数百ヘクタールであり、県内の農地面積が十数万ヘクタールに比べてまだまだである。

2 計画目標達成状況の把握方法について

事務局（千代副課長）から、資料2により、今後の手賀沼水循環回復行動計画の目標値達成状況の把握方法について説明。

・佐倉会長

日立研修センターに行く機会があった。自然の緑地が残っているということで我孫子市の景観賞をとったということである。

そういった自然が変化しないところで、湧水の量、地下水の問題など、水門関係はどうなのか、変化したところでどうなのか。千葉大学の唐助教授が観測を行う。来年くらいには結果がでるので、千葉大学との連携、地域連携、協働の成果が取り込めたら考えているのでよろしくお願ひしたい。

・瀧委員

手賀沼の水環境保全となっているが、水というのは、水だけの話ではなく陸の状況もあって、その結果として水の状況がある。

今回の目標達成状況の把握方法で、陸のデータはどのように把握されているのか。空は鳥、水の中は魚類、水生植物・水生生物という形になっているが、陸の状況、例えば、森林の状況、樹木の種類、草、陸生の動物なども含めて調査してはどうか。直接調査をするのではなく、他の調査結果などを取り入れてモニタリングしてはどうか。

果樹園などもあり、その辺も含めて陸域の状況を把握してはどうか。

・事務局（千代副課長）

森林、動物も含めた陸域の状況をとということですが、自然環境調査ということで市町村単位で行われているかと思う。その調査結果が使えるかどうか、また継続的・定期的に行われていくのかを調べた上で次回の会議で報告したい。

・佐倉会長

土地利用面積の変遷については、航空写真など毎年撮影しているので、定量的に毎年変化を見てはどうか。面的な問題では意味があるのではないか。そういった監視体制も検討してみてもどうか。

・事務局（守課長）

土地利用面積の変遷、人口については毎年把握していく。

陸上の動物の種類、いわゆるトータルで考えると自然保護ということとなるかと思うが、動物の種類、植物の種類まで踏み込めるかどうかは難しい。

・瀧委員

私は非常に重要であると考えている。

市町村、NPO、NGOのデータを活用するというレベルで十分ではないか。

陸が乾燥してきている、それに一番敏感に反応するのは動植物である。

毎年調査する必要はない、あまり時間のかからない方法で行って欲しい。

流域全体のHPを作るその中に、水だけではなく水と陸との連続的な話ができる、厚みがでてくると考えている。

・渡邊委員

ここでいう緑地は、山林、畑、公園である。公園は別として、畑、水田は他の目的に転用する場合には、必ず何らかの届け出をしており把握ができる。

山林は地域森林計画があり、開発を行う場合、森林以外のものにする場合には、面積によって許可あるいは届け出制となっている。

つまり、細かい数字まで把握できるはずである。

スタートをどこに置くかはあるが、傾向、数年間の実数は見られると思う。

・事務局（課長）

陸生の状況についてですが、まずこの周辺でどのようなところがどのようなことをやっているか、またそれが使えるかどうか、その把握からしていきたい。

・瀧委員

魚類のところで、漁業協同組合の今までのデータ、数値をうまく利用できるものはないのか。

・事務局（千代副課長）

県内水面水産研究センターの資源動態調査自体も漁業協同組合の協力を得て実施しているようだ。

それに加え、さらに地元の漁協と連携して、広範囲な視野を広げた調査が実施できるかどうか、検討していきたい。

・佐倉会長

田口会長さんの意見、生物の状況がどのように変化してきたかもあるのでよろしくお願ひしたい。

3 協働調査実施結果について

事務局（平川主査）から、資料3-1及び3-2により、平成15年度協働調査実施結果及び平成16年度第1回目調査の結果について説明

・佐倉会長

雨の中大変な調査であったと思う。しかし、データに影響はあまりなかったようである。調査の実施時期として3月は雨が少なく、よい時期である。

・小林委員

調査をやってきた身として大変な調査であったと思う。

感想として、これだけの大人数、市民連合会が参加しての調査、流域も含めて、次の新しい手賀沼をつくっていくということを感じた。

たくさんの方が川を歩かれて、実際に川の様子を見たということは非常に意味がある。今まで手賀沼中心であったものが、身近な川に近づいてきて、色々な感想を持ち、今度どのような川に作り変えるかという考えがでてくる。

ゆくゆくはこういった調査の結果を、例えば、金山落の多自然型護岸など行政の土木事業に反映、結びつけて欲しい。

調査結果で特徴的なのが、湧水調査の結果で、硝酸性窒素で高い値がでていいる。2回とも高い値がでるなど、色々データから問題が考えられる。

調査結果の傾向、なぜ数値が高いのか、土地利用、湖沼計画で調べている地域の負荷量などと結びつけて、なぜ湧水の硝酸性窒素が高いか、なぜ湧水がなくなったのかを考え次に進めていくことが必要である。

現場で、パックテストなどはできるが、生物、魚、植生については、知っている人でないと記帳ができないところがあるので、現場の体制を考えて欲しい。

- ・佐倉会長

傾向が非常にでていいるものがある、大堀川の源流、金山落の源流でリン、CODなどの濃度が非常に大きい値がでていいる。繰り返し返しモニタリングしていくことの重要性が、どう変化していくかにつながる。貴重なデータになると思うので、継続して行って欲しい。

- ・塩野谷委員

市などで実施していいる調査では全窒素で行っていいる。全窒素は、硝酸性窒素と亜硝酸性窒素とアンモニア性窒素の合計と考えてよいか。なぜ分けて行ったのか。

- ・事務局（千代副課長）

厳密には、有機体の窒素が抜けていいるが、河川などでは概ねイコールと考えてよいのではないか。

- ・山木委員（沼南・手賀沼ボランティア会）

今年の春に大津川を歩いたところ、結構水草が見られた。手賀沼にはなくなったとされていいる、ガシャモクの仲間の沈水植物であるヤナギモが見られた。大津川は下流から改修工事を行っていいるが、これから改修工事が行われようとするところである。

工事前に専門家による生物調査の結果が発表されていいたが水草は記載されていいなかった。このまま水草がないとされて工事が進んでは大変なのでアピールしなければならないと思っっている。手賀沼になくなっていいる水草が川にはあるということは貴重であると思っ思う。何らかの形で残して欲しいということで報告書だけは作りたいと思っっている。

- ・佐倉会長

大津川の別の調査の報告ということですが、きちんとした記載、大変大事であると思っ思いますのでよろしくお願ひしたい。

4 その他

- ・手賀沼水質浄化対策協議会との関係について

事務局（千代副課長）から、平成17年度から手賀沼水質浄化対策協議会の専門部会として位置付ける方向で検討中であり、7月30日開催予定の手賀沼水質浄化対策協議会の総会で中間報告することを説明。

・最後に、事務局から、次回の推進会議の開催予定について、2～3月頃開催、今回の推進会議の宿題について報告、平成16年度協働調査結果、主要な取組の推進方策の検討、また、適当な場所があれば現地見学会などを考えている旨伝えた。

○閉会